

事例19:「大きい波を作ろう」 5歳児(8月)

幼児期の終わりまでに育てほしい姿(10の姿)との関連

①健康な心と体②自立心③協同性④思考力の芽生え⑦自然との関わり・生命尊重⑨言葉による伝え合い⑩豊かな感性と表現

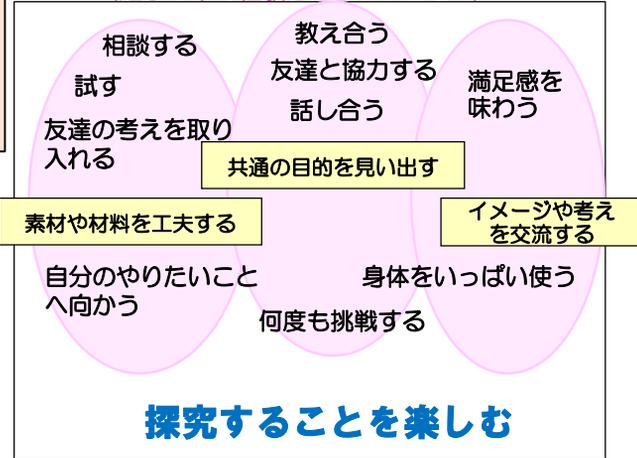
これまでの姿

プール開きの日に、年中組からの提案で波作りをすることになった。16名の年中児と9名の年長児がプールの両サイドに分かれて早歩きで中央に向かって進む波作りに挑戦したが、うまく波を作ることができなかった。

◎ねらい○内容

- ◎プール遊びを通して友達と一緒に同じ目的に向かって遊びを進める楽しさを味わう。
- 水の気持ちよさを感じたり、性質に関心をもったりする。
- 友達と一緒に大きな波をつくり、自分たちなりの目的を達成し、満足感を味わう。
- 自分の考えを出したり、友達の考えを受け入れたりしながら、友達と工夫し協力して遊ぶ。

架け橋期のカリキュラムとの関連
(遊びの中で経験させたいプロセス)



遊びの様子(番号:10の姿との関連)

プールで波作りに挑戦した別の日に、A児が①⑨「また波を作ってみたい」と言った。B児が①③⑥⑦⑨「ビート板でやってみたらいいって！ビート板を使おう！」と提案した。クラス全員が1人1枚ビート板を持ち、年長児が半分に分かれて両サイドの壁面に並び、C児の「せーの！」という掛け声で一斉に壁を蹴ったりバタ足したりして中央に向かって泳ぐと、小さな波が立った。数回繰り返していた。

その後のプール遊びで何度か繰り返していたが、大きな波ができることはなかった。

いよいよプールじまいの日、D児が①③⑥⑦⑨「もっと大きい波をつくりたい」と言うと、A児が「どうやって？」と問いかけた。B児が②「ビート板は持った方が勢いよく(水を)押せる」D児が「2つに分かれず、皆同じ壁から行ってみたらいいんじゃない？」と言い、一斉に泳ぐと大きな波が立った。嬉しくなったC児が①③⑥⑨⑩「戻って！もう1回！」「せーの！」「まだまだ！」と次々と言い、皆も自然と大きな声になってきた。

そして何度もプールの壁から泳ぎ、戻ってくることを繰り返すと、体が大きく浮き、プールからたくさんの水があふれ出るくらいの波をつくることができ、歓声が上がった。

★環境の構成 ○保育者の関わり

★試し活動が十分できるよう、時間や水分補給等配慮する。

★十分な数のビート板を用意し、子ども達が使いやすいように並べておく。

○子どもの発想を肯定的に受け止め、繰り返し挑戦する姿を見守ったり、子どもの様子に応じて仲間入りしたりする。

○友達同士で言葉のやり取りをする場面を見守り、必要に応じて心情をくみ取ったり、必要に応じて言葉を足したりして、友達同士をつなぎ、共に取り組む気持ちに共感する。

遊びや学びのプロセス(10の姿)

「大きい波を作ろう」活動のプロセス

大きな波を作るといった目的に向かって遊びを進める

○子ども達の発想を受け止め、繰り返し挑戦する姿を見守る。

友達と考えを出し合い、試行錯誤し工夫する

★十分な数のビート板を用意し、使いやすいようにしておく。

○試し活動が十分できるよう時間を配慮する。

波を作るには、どうしたらいいんだろうと考え合う

③協同性

大きな波を作りたいという共通の目的に向かって、自分の思いを伝えたり友達の思いを受け入れたりし、繰り返し挑戦することで目的が実現する喜びを味わう。

⑦自然との関わり・生命尊重
それぞれの幼児が考えを言葉で表現しながら、予想を立てたり確かめたりして水に関わっている。



①健康な心と体
友達との信頼関係の中で達成したいことに向かってのびのびと体を動かして取り組んでいる。

②自立心
共通の目的を理解し、目的達成のために自主的に行動している。

⑥思考力の芽生え

どうすれば大きな波に変化するかを友達と共に考え、様々な方法を試したり、新たな考えを生み出したりしている。

⑩豊かな感性と表現

友達と目的を達成するためのやる気が出る掛け声によって更に挑戦したい気持ちが生まれている。



⑨言葉による伝え合い

自分の考えを言葉にして伝え、友達の話を理解し、よりよい方法を見付けようと話し合い、遊びを進めている。

小学校教員の気付き

◆集団生活の中での人との関わりを通して、子どもは自分のしたいことや相手にしてほしいこと言葉による伝え方、相手の合意を得ることの必要性が分かってきます。協力して意見を出し合ったり取り組むことで目的を達成する気持ちを味わい、次への意欲につながっていくのだと思いました。



◆子どもがしたいこと、しようとしていることを教師が伝えてしまえば早く解決しますが、それを子ども自身が考え解決できるよう“待つこと”“見守り援助すること”の大切さに気付きました。

◆うまくいかなかったときと方法を変えて再度チャレンジする姿は、結果に対する原因を考え、幼児なりに条件を変えて試そうとしていました。また、うまくいかないときは何かの条件を変えてみるとよいという経験をしているのだと思いました。

保護者への発信ポイント

◆子どもに「粘り強く考える力をつけてほしい」と思うもの。日々の遊びや生活の中でじっくりモノやことに関わり、何度でも挑戦できる場があることで、そんな力が育まれ、小学校に上がってもいろんな場面で、粘り強く取り組めるようになっていくことを写真なども活用して伝えていきたいと思います。